



NO.861
2012.4.1
発行所
日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四三三・四四五八
F四三三・四四五七

菅原誠衆議院12区予定候補網走入り!

3月7日に記者会見で、次期衆議院選挙で北海道12区から立候補を表明した日本共産党の菅原誠予定候補が、28日に朝から網走市に入りました。午前9時から網走タイムス社を表敬訪問し、インタビューで有権者に何を訴えるのかとの質問に、「2009年の総選挙で「生活が第一」「政権交代を」とマニフェストで訴え政権交代が起き、



2年半経つたが、公約はほとんど反故にされた。TPP協定は、地域が壊される。日本共産党が発表した「消費税ストップ、社会保障充実、財政危機打開の提言」を有権者に訴えたい。また、原発問題では、福島原発事故の原因が解明されていない中で、再稼働など行つてはならない」などについて、訴えたいと答えました。

その後、10時から網走商工会議所の尾崎専務と懇談し、消費税増税やTPPについて話題人になりました。11時から網走医師会の桑原事務局長と医療情勢について懇談、午後1時から中央商店街振興組合の菅原弘一事務局長と消費税について懇談しました。また、午後3時からスーパードラッグ橋北店前と、同じく駒馬店で街頭演説を行いました。

3月議会が閉会!

平成24年度一般会び市有財産、国民健康保険、網走港整備、能取漁港整備、流水館、介護保険、後期高齢者医療の7特別会計と水道事業会計、職員給与条例の一部改正、職員給与の特例に関する条例、介護保険料引き上げに日本共産党議員団として反対しました。

松浦奮戦メモ

「日本のメディアを考えると」パンフレットを日本共産党中央委員会が発売、価格は100円です。読むと日本のメディアが世界の中心

で、いかに異常であるかが分かります。例えば、大手新聞とテレビ局が系列化されていますが、欧米には考えられないことなのです。さらには、メディアには「権力のチェック役」がありますが、日本のメディアは「チェック役」どころか「権力と一体化」しています。

その一例が、1990年代の小選挙区制導入で、政府の諮問機関として第8次選挙制度審議会がつけられますが、そこに主要メディアの幹部を軒並み組み込みされました。27人の審議委員の内、メディア関係者が12名にもなりました。第8次選挙制度審議会は、1990年に小選挙区制導入の答申を出し、自分が参加してつくった答申をその通りに「政治改革＝小選挙区制」という大キャンペーンが主要メディアの全てをのみ込んで展開され、小選挙区制が導入されたのです。

いよいよ東奔西走

三月議会が終わりました。3月6日から丁度3週間、事前説明会からすると1ヶ月になります。今年には代表質問の番だったので何かと準備に忙しく、慌ただしい時を過ごしました。

一般会計が209億円と身の丈型にもどって3年、第三次行政改革の2年目の年です。今年の3月議会の特徴は、与野党問わず、第三次行革の財政収支見直しやゴミ処理事業をはじめとするインフラ整備でのアバウトさに対する疑問、唐突にでてきた観光部の新設など審査材料が大変多かったことでした。

今回も根本原因にたどり着かない「木を見て森を見ない」議論が闊歩してしまいました。新人が多いので来年以降に期待は持ち越しますが、住民の負託に応える努力も当然求められます。

新年度予算という、華やかさをまとったイベントの新規事業がスポットライトを浴びがちですが、その陰に隠れたかのような介護保険料の値上げ、国保料の増減、子育てにつながる保育行政の転換、マンパワーの基本給削減による影響等々、これらがボデイブローのように効いてきます。

流水

視聴覚室に集った40人程の前で、あの詩「――逃げる、逃げない。食べる、食べない。マスクをさせる、させない。苦渋の選択が――。H23年9月19日」。

茨城から避難しているMさんは淡々と朗読した。辛い事情があるのに平然と見えるが、その気持ち伝わって目頭が熱くなった▼この日は3月8日国際婦人デー網走集会だった。▼乳幼児を抱える若いお母さん達が参加していた。「放射線内部被爆から子どもを守るために」のテーマで、DVD上映のあと、子ども達への食材に神経質になっている状況、感想などを交流した。▼「セシウム蓄積の影響を市に訴えた。」「食の見直しをしたい。」「お米が心配。」「情報がほしい。」「子どもへの思いが伝わってくる。他の方から、市民にもっと知らせてほしい。」「の声も上がった。▼全国の母親達の声が広がり、食の500レクベルが100以下レクベルに下がったことは、運動の成果であること。そして”過度に恐れず、事態を侮らず、理性的に怖る、と、安齋科学・平和事務所長安齋育郎さんの趣旨が紹介された。▼この声を拡げて行きたいと思つた。▼パンと参政権を求めてデモを起こした女性達の願いは今年102年目を迎えた国際婦人デーである。(て)